

単元名 あまりのあるわり算

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 余りのある除法の計算の仕方を理解し、計算ができるとともに、場面に応じて余りを的確に処理することができる。
- (2) 除法の意味に基づいて、余りのある除法の求め方を考えることができるとともに、除数と余りの大きさの関係を捉えることができる。
- (3) 余りのある除法の問題に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

03040202_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 余りのある除法の意味と計算方法について理解する。[p. 104～p. 106]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チョコレート12個とあめ13個を1袋に3個ずつ分ける問題を読み、式を立てる。 ○余りがある場合とない場合の違いについて考える。 <p>○余りのある除法について知る。</p> <p>○式の書き方、読み方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(例) $13 \div 3 = 4$ あまり 1 ・(例) 13わる3は4あまり1 <p>○「わり切れる」「わり切れない」という意味を知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★あまりのあるわり算について調べていこう。</p> <p>2 余りと除数の大小関係について考える。[p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★わる数とあまりの大きさについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○$19 \div 4$の正しい商と余りについて予想する。 ○わられる数が変化したときの商と余りの数を求める問題に取り組む。 <p>○余りと除数との関係についてまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 余りのある除法（等分除）の計算の仕方を考える。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★同じ数ずつ分けてあまりのあるわり算について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題の式を立て、商と余りを求める。 <p>○数図ブロックを使って、商と余りが正しいか確かめる。</p> <p>○等分除と包含除の「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 余りのある除法の答えの確かめ方を考える。[p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★わり算の答えのたしかめ方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○答えの確かめ方を考える。 <p>○答えの確かめ方をまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 余りのある除法の練習問題を解く。[p. 110]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「練習」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックを操作しながら考えさせる。 ・九九で計算できるか否かという点に注目させる。 <p>【評】数図ブロックを使って、余りのある除法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ数ずつ分けた残りが余りになることを確認する。余りがある場合でも、除法を用いて計算することに気付かせる。 ・2の段の九九を使い、積が15に近い時のかける数はいくつかを考えさせる。 ・除数は変えずに、被除数を順番に変えた場合の余りの数に着目させる。 ・$19 \div 4$の商と余りの数に注目させ、4人の組が作れるかどうかを考えさせる。 ・早く解けた児童に説明をさせる。 ・全体の人数が20～24人の場合の答えを求めさせる。それによって、余りが1, 2, 3しかないことから、(余り) < (除数) であることに気付かせる。 <p>【評】余りと除数との関係を見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除数の段の九九を唱え、被除数を超える1つ前が商になることに気付かせる。 ・数図ブロックを使って問題場面を把握させるとよい。 ・1学期の学習を振り返らせ、等分除の場合でも、除法の式で表すことができたことを想起させる。 ・分け方の違いに注意して考えさせる。 ・包含除の場合には、連続量でも余りが考えられることに注意させる。 <p>【評】分け方の違いを考えながらわり算の問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(余り) < (除数) であることを再確認させる。 ・余りのないかけ算の時には、どのような確かめ算をしたかを確認する。 ・(全体の数), (1袋分の数), (袋の数), (余り)の関係を捉えやすくするために数図ブロックを操作させる。 <p>【評】答えの確かめ方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(除数) × (商) + (余り) = (被除数) であることを気付かせる。 ・余りが除数を超えていないか確かめさせる。 ・個別指導を中心に、定着を図る。 ・余りのある等分除・包含除の連続量についての除法の練習問題に取り組ませる。

<p>6 余りを切り上げて答えを出す場面の問題を解く。[p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○余りを切り上げる場合の文章問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★あまりをどうすればよいのかを考えて、長いすの数をもとめよう。 ○余りの処理の仕方について考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>7 余りを切り捨てて答えを出す場面の問題を解く。[p. 112・p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○余りを切り捨てる問題の立式を行う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★あまりをどうすればよいのかを考えて、立てられる本の数をもとめよう。 ○「練習問題」に取り組む。 ○「あまりの数を使って」に取り組む。 <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 114・p. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実の場面を想起させ、余りを切り上げて商を1大きくする場合を判断できるようにさせる。 ・式を立てさせ、商と余りまで求めさせる。また、商と余りに単位を付けさせる。児童の実態に応じ、式にも単位を付けて考えさせるとよい。 ・余りの3人はどうするか注目させる。 ・椅子が8脚の場合、残りの3人が椅子に座れなくなることに気付かせる。 <p>【評】余りの処理についての話し合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りを切り上げることを、自分で判断して問題を考えるように助言する。 ・現実の場面を想起させ、余りを切り捨てる場合を、場面に応じて判断できるようにさせる。 ・線分図をかかせ、余った2cmをどのようにすればよいか考えさせる。 ・余りを切り上げる場合と切り捨てる場合の違いを確認する。 <p>【評】余りを切り捨てる問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵や図を基に、答えを推測し、説明させる。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りのある除法について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】
 九九を1回適用してわり切れる場合の除法については、既に学習している。本単元では、その発展として、わり切れない場合についてを取り扱う。まず、包含除で導入して余りの意味やわり切れない場合についての式の表し方について明らかにし、その次に等分除の場合を扱うようにする。また、「余り<除数」の関係や除数の変化に伴う余りの変化の様子についての理解では、数図ブロックを利用する工夫が必要である。
 なお余りの表記は「・・・」ではなく「あまり」で表すよう指導する。